

令和5年度 自己評価・学校関係者評価に係る評価結果等報告書（小・中学校用）

高松市立牟礼南小学校

	評価項目	評価 4段階	自己評価結果と改善方策等	学校関係者評価結果および意見等
1	確かな学力の育成に関すること (学力向上、キャリア教育、英語教育、情報教育等)	3	○県児童生徒質問紙調査結果（5年生のみ実施）では、テストで間違えた問題を後で勉強している児童の割合が県平均を上回り、学習内容の定着に向けて努力する姿が見られるようになった。 ○ICT支援等と連携して、一人1台端末を積極的に活用する様子が見られた。	○読解力や表現力が弱いのが気になる。ICTを使うことで、自分で簡単に調べられるようになった一方で、友達とコミュニケーションを取りながら考える機会が減り、コミュニケーション力が弱くなっているのではないかと心配している。友達と話す機会や、総合学習などで、地域の方と話す機会など、様々な人とコミュニケーションを取る機会を増やしてほしい。
2	豊かな心を育てる教育の推進に関すること (道徳教育、小中一貫・連携教育、シビックプライド、読書活動、体験活動等)	3	○個別支援が必要な児童が増えているため、道徳教育や体験活動の充実を図り、豊かな心を育てる教育の推進が一層必要である。 ○読書旬間などの工夫した取り組みにより、読書への関心が高まっている。	○不登校やいじめに対して、学校が真剣に取り組もうとしているのがよく分かった。不登校の子どもには、学校外の活動に参加するアプローチを考えてもいいのではないかと考えている。また、オンライン授業を通して、授業に参加を促すこともできるのではないかと考えている。
3	生徒指導の充実に関すること (いじめ、不登校対策、学校生活のきまり(校則など)等)	4	○2学期からいじめアンケートを毎月実施し、対応を関係者で協議し、いじめの早期発見、早期解決に努めた。外部機関とも連携を図りながら取り組んだ。	○学力向上は大切だが、現在の子どもの実態を考えると、まずは落ち着いて学習に臨める環境をつくってほしい。
4	運動に親しむ習慣づくりと体力の向上に関すること (体力・運動能力の育成)	3	○委員会活動を通して、児童自ら外遊びの推進を図るようにしたり、縦割り班活動でも長縄跳びを取り入れたりするなどして体力の向上に努めた。	○見守り隊に新しい人をどのように入れていくか課題である。まずは、自治会長を通じて、呼びかけをしていきたい。
5	食育の推進と心身の健康づくりに関すること	3	○栄養教諭による食育指導や委員会活動により、栄養やマナー向上を図った。 ○SCによる保護者や高学年児童、担任との相談活動など、教育相談を工夫して実施することができた。	○地域として育てたい子ども像としては、「あいさつができる子」「友達に寄り添える子」「自己肯定感の高い子」である。
6	学校人権教育の推進に関すること	3	○児童が人権について深く考えられるように、教職員の人権感覚向上に務めたり、人権集会の内容を見直したり、保護者に公開したりすることができた。	
7	特別支援教育の推進に関すること	3	○特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援委員会を実施するとともに、外部機関との連携を積極的に行い、個に応じた指導の充実が図られた。	
8	教員の資質向上と教育指導体制の充実に関すること (職員のコンプライアンス・現職教育等)	4	○10月の生活総合の四国大会では、3年間取り組んできた研究の成果を県内外の先生方に発信することができた。研究を通して、教員が地域教材の開発に、意欲的に取り組むなどシビックプライドの醸成を意識した指導が定着した。	
9	安心・安全で質の高い教育環境の整備に関すること	4	○地区安全委員や見守り隊の登下校指導、青少年健全育成委員の巡視活動で安全が守られ、PTA農園やホテル池整備で豊かな教育環境が保たれている。	
10	家庭や地域との連携・協働に関すること (コミュニティ・スクール等)	3	○ふるさとまつりでは、ステージ発表の内容やバザーの運営などをPTAと連携して取り組み、親子や友達、地域の方との絆を深めることができた。	
11	働き方改革・業務改善に関すること (時間外勤務の削減等)	3	○教員の時間外勤務は、11月は平均40時間と8時間増加したが、45時間以内なので、概ね良好と考える。個人差があるので、多い教員の改善を促したい。	